

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300507		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホーム やまぶき		
所在地	埼玉県本庄市朝日町1-14-3		
自己評価作成日	平成22年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2F		
訪問調査日	平成22年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

慰問やボランティア活動(大正琴・踊り・手品等) 退場日会のお祝い膳(その当事者様の好みを伺い献立に反映させている) うめぼし体操などを行い心身の活性化に努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは群馬県に本社を置く、ケアサプライシステムズ株式会社(訪問介護・デイサービス・居宅介護支援・グループホーム)が運営している。本庄駅から10分ほどの住宅地の中に、木造平屋造りのデイサービスが併設された、室内の天井が高く広々とした明るく清潔感のある施設となっている。職員には年2回の法人本部で行う研修の他に、積極的に外部研修を受講する機会をつくり、職員の育成に努めている。この結果、仕事にやりがいと生きがいを見出し、利用者に関心をこめた親切なサービスが行われて、事業所全体が明るく、生き生きとした家族的な明るい良い雰囲気が出てきている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念に基づき、各職員が共有し実践する様努めている。	理念はホーム内の目に付きやすい場所に掲示されている。管理者と職員は会議等で理念を確認しながら、運営方針に具体化された内容を支援の中に取り入れ、実現するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりは大切にしています。民生委員や自治会長さんより情報提供して頂き参加の機会を多く設けたい。	自治会に加入し、町内会のゴミ箱の清掃を利用者と一緒にこなったり、民生委員を経由しての施設の行事紹介等積極的に取り組んでいる。	市・民生委員とのつながりは大変良い関係があるので、事業所として地域とのさらなるつながりが持てるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアなど来訪時、地域のお年寄りにも声掛けし、一緒に楽しんでいただく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議を開き、ご家族様や民生委員、市役所職員と話し合い意見を多く聞くことによりサービスの向上に努めている。	年6回の運営推進会議には、市の職員・民生委員・家族の参加の中で現状報告・意見交換を行い、会議で出された意見については、業務に反映、向上できるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の行事や研修などに積極的に参加し交流を図るよう取り組んでいる。	市の開催するお祭りや研修等に参加したり、市への報告訪問・依頼訪問を積極的に行い、空室情報・市のホームページに紹介・スプリンクラーの設置依頼等、様々な機会を通じて連携の取り組みがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	無理強いせず見守りや声掛けを強化し、利用者様の訴えや話を聞くよう取り組んでいる。	外部・内部研修への参加により、拘束はしない対応の工夫(否定的な言葉がけ・大きな声での呼びかけを含めたケアの実践等)を全職員共有し、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議などデ話題に取り上げている。常に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修に参加し学ぶ機会を持って理解を深める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人の希望や家族の希望を十分に理解し、利用者様に説明し、理解や納得を図る。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時意見交換をしている。また、意見箱を設け運営に反映させている。	家族が利用料支払いのため、直接来所することもあり、必ず職員が接し頻繁に意見交換をしている。又、意見箱の設置するなど気軽に相談できる雰囲気作りをし、運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見や提案を聞く機会を設けている。月1回の会議でも反映させている。	職員会議・個人面談等にて職員の意見を聞く機会を持ち、前向きに取り入れられよう努めている。ひとつは、入浴の段取りの流れが改善でき、よりスムーズかつ安全に入浴できるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課評を取り入れ、賞与に反映させている。職員と個人面談を行い、指導や個人の意見を聞き、業務改善できるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回、法人研修を実施している。規定に達した職員には実践者研修等の外部研修にも積極的に参加し、毎月の職員カフェでは様々な話題をあげ検討会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会や市が主催する交流の場に参加し、同業者との連携に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に聞く機会を設け、本人の希望や家族の希望を聞き、安心確保の為の関係作り に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所面接日に充分理解できるまで説明し、不安を聞き安心して過ごして頂けるよう努 めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から学ぶ機会も多く、お互いが支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様より利用者様の生活歴をお聞きし、本人と家族の絆も大切にしながら共有したり、支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来た時は快く受け入れている。時々利用者様に電話を下さる方もいるので、ゆっくり話をしてもらっている。	入居時のアセスメントや利用者との日々の会話から、これまでの馴染みの人や場所を把握し、知人の訪問、馴染みの場所への家族との外出など、これまでの関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方との関わりは勿論、職員が利用者様の個性を把握し、うまく関わられるよう支え合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状を出したりとお付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方を大切に、しっかりと踏まえて努めている。	入居時に利用者・家族との面談にて、以前の生活内容や人生観を掌握したうえで、入居後の行動パターンを観察し、個別に思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から利用者の生活歴をお聞きし、サービスの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ一人ひとりが利用者様の日々の様子を観察し、会議で話あったり、申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで話し合っている。担当者を決めて関係者との話し合いを設けている。	利用者ごとに担当職員を配置し、細かなモニタリングを行なっている。さらに全員の意見を聞くためにミニカンファレンスを開き、その後月1回のカンファレンスにて、より良い支援計画作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録や申し送りノートに目を通し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアマネさんを中心に、毎月のケアカンファレンスを開き、その時々生まれるニーズに対応して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議に民生委員さんや市役所職員に出席して頂いたりしている。消防訓練を行ったり、ボランティアの慰問も受け入れている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの開業医と連携をとり、適切な医療を受けている。	事業所の協力病院である開業医の診察日には、看護師に来てもらい、情報の共有をはかり適切な医療を受けられるようにしている。看護師とは24時間対応の体制がとられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師に健康管理や医療全般を見極めていただき、ご家族様に近況報告をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	どのような状態か、またいつぐらいに退院できるのかなど、病院関係者と情報交換や相談をし、関係づくりに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様や看護師、かかりつけ医、職員が一体化するように連携をとっている。	入居時に事業所で出来ること、出来ないことを十分説明し、理解を得たうえで重度化対応を実施している。本人本位の対応を最優先と考え、ご家族・看護師・かかりつけ医との連絡を密にして、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、応援体制をとっている。また、AEDを設置し、急変に備えている。訓練もしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の非難場所の確保や地元の協力を仰ぐ。	年2回の避難訓練を実施、そのうち1回は消防署の立会いの下で行なっている。運営推進会議にて地元の住民への協力呼びかけや、民生委員・自治会の理解を得て実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の自尊心を傷つけないよう言葉遣いや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に合わせ話をし、自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その方を良く知ることを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を重視している。また移動床屋にも来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを聞き、献立に取り入れたりにしている。テーブル拭きなどもしてもらっている。	職員が栄養面を配慮し献立を作っている。誕生月には好みを聞いて、好きな食事を提供している。外食ツアー・出前・お米はコシヒカリを使用する等楽しみを広げている。食後の片付け、テーブル拭きを一緒に行う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックや十分な水分補給を心がけている。水分量は記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしていただき、歯磨きの仕方も援助している。就寝前はポリドントに義歯をつけていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーの厳守に努め、その方に合わせ、リハビリパンツや尿取りパットの使用を検討し支援している。	排泄はトイレ使用を基本として、利用者一人一人の排泄パターンを全職員が掌握し、声かけの工夫により、できる限りトイレで排泄していただくよう誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を取ってもらったり、体操やレクの参加を促し、身体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は利用者様のペースに合わせている。希望があれば入浴日以外でも入浴出来るよう努めている。	夏場は週3回の入浴を基準として支援し、入浴順をローテーションで平等に入れるようにしている。入浴日でない日でも利用者の希望により入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は居室のベッドで横になり休息を取ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に袋を設け誤薬のないようにしている。病状の変化を見逃さない。薬が処方された際には受薬ノートに必ず記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴の把握、個々の楽しみなどをお聞きし、レクや気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴できるよう、外でお茶を飲んだりしている。行事で外食に行くことも取り入れている。	職員の声かけにより、天気の良い日には、利用者の体調も考慮し外気浴が出来るよう、施設の庭にてお茶を飲んだりしている。本人や家族の希望を聞き、家族との外出・外泊等もできるように支援している。	近所への散歩の支援、食材購入の際の買い物への支援等、利用者の楽しみ、生きがいを持てるようなさらなる支援の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主にホーム側で管理して支払いを代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望する際には職員が電話をかけ会話を楽しんでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を取り入れたり、行事に合わせた装飾をして居心地よく過ごせるように工夫している。	天井が高く、広く明るいリビングには、畳コーナーもあり、安らぎを得られる生活観のある配慮が感じられる。壁には季節の行事(クリスマス・七夕・お雛様等)に合わせた手作りの作品が飾られ季節感を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に家族の写真等を飾って自らを生かせるようしている。また、居室で気の合う方と一緒に話をしたりもできている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや椅子などを持ってきていただき、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	愛着のある品、思い出の品の持ち込みを推奨している。馴染みのタンス・椅子・ベット・家具類が置かれ、写真、本人の作品等の小物類が置かれ、好みに応じた、自由な配置で居心地の良さを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の残存機能に合わせて助言や介助をし、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう努めている。		